



はじめの天とはじめの地、新しい天と新しい地

聖書は、時代を重ねて追記された複数の書からなる書の集まりで、主イエスが来られたのちに、ひとつの書物として完結した。

ヘブライ語で書かれている書は旧約聖書と呼ばれ、ギリシャ語で書かれている書は、新約聖書と呼ばれる。

旧約聖書には、はじめに、神が、天と地を創造されてから、メシアが来られるまでのことが書かれ、新約聖書には、神の子、主イエス・メシアが来られて、新しい天と新しい地を創造することが書かれている。はじめの創造と新しい創造である。

旧約聖書も新約聖書も、それぞれ概ね4つに分かれている。

新約聖書の中で「聖書…」という場合、主イエスが言われる場合も含めて、旧約聖書を指している。そして、「わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就する。」と言われたように、旧約聖書を「モーセの律法と預言者と詩篇」と表現している。ユダヤ人の聖書の区分では、律法と預言者と諸書と呼ばれ、預言者は、さらに、歴史書の部分を前預言者、預言書の部分を後預言者との二つに分ける。

キリスト教では、主イエス・キリストが来られて、それまでの聖書（旧約聖書）に書かれたことが成就したと信じるので、新しい契約の書物として、新約聖書と呼ぶ。

新約聖書は、主イエスが来られてから十字架にかけられ復活するまでが書かれた福音書、主が天に昇り聖霊が与えられることを書き記した使徒行伝、教会を御霊のことばで導く手紙、そして、主イエスの大勝利とその妻である教会との結婚を賛美する黙示録の4つの部分で構成される。

この新約聖書の4区分は、旧約時代のイスラエルの祭りの型の成就である。主イエスが神の小羊として過ぎ越しのいけにえとなり（逾越祭）、初穂として天に昇って聖霊を送り（七週祭・五旬節）、40年の荒野の時代を御霊とみことばによって導き、新しい天地に安息をもたらす（仮庵祭）。

一方、旧約聖書の4つの区分は、新約時代に明らかにされた奥義である、神は父と子と御霊なる三位一体の神であることが、その概略を成している。御父は、モーセを通して教えを与える。次に、神の子であるべき王が、神を信じるのか神に逆らうのかが歴史書に記録され、さらに、預言者のことばを通して神の民が導かれる。詩篇は、賛美と御霊の歌である。

旧約聖書：父・子・子ら・御霊

新約聖書：長男・弟（弟子）・兄弟たち（教会）・ハレルヤ

神は、神に似るように、神のかたちに、人を造り、キリストに似たものになるように新しくしてくださるのである。